

## 後処理剤使用による切り花カーネーションの日持ち延長

### [要約]

10月から翌年5月までの切り花カーネーションは、水道水で観賞するより後処理剤のクリザールクリア 500 倍液を用いて観賞することで日持ち期間が延長できる。

農業総合センター園芸研究所

### 1. 背景・ねらい

最近、切花に日持ち保証を付けて、消費者に安心して購入してもらい消費拡大につなげる動きが小売店や生産者で起こっている。この付加価値を付けた有利販売による所得の向上ならびに経営の安定化のためには、切花の日持ち性を把握することが不可欠であるとともに、消費場面での観賞条件が日持ちを左右することの啓発が大切である。そこで、消費場面での安定的な観賞のために、出荷時期ならびに後処理剤の使用の違いが切り花カーネーションの日持ち性に及ぼす影響を検討する。

### 2. 成果の内容

- 1) 主力品種である「フランシスコ」、「ライトピンクバーバラ」、「インターメッツォ」、「キャンドル」を用いた。平成13年10月～平成14年5月の期間、生産者が大田花き市場に出荷した切花を、せり後、当所に転送してもらった。切花長60cm(10月～2月)、50cm(3月～5月)に調整し、室温20℃・12時間照明(650Lux)の条件下で観賞した。生け水は水道水とクリザールクリア 500 倍液を用いた。水道水区は概ね2日おきに交換し、クリザール処理区は吸水分を補充した。生け水交換時に約1cmの切り戻しを行った。
- 2) どの品種とも、クリザールクリア 500 倍液に切り花を生けて観賞することで、水道水で観賞するより日持ち期間が長くできる(図1)。
- 3) 出荷時期で比較すると、どの品種でも4月以降は日持ち期間が短くなる傾向がみられるが、クリザールクリア 500 倍液に切り花を生けて観賞することで、おおむね約2週間以上の日持ち期間になる。ただし、「フランシスコ」の5月出荷ではクリザールクリア 500 倍液を使用しても10.6日しかもたない(図1)。

### 3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「インターメッツォ」は他の品種に比べて日持ち性が優れ、「キャンドル」は、水道水区で茎葉のみずみずしさが早期に失われるなど、品種による差がみられるので、品種間差に注意する。
- 2) 収穫から出荷までの作業管理の影響は考慮していない。
- 3) 切花長の差(50cm, 60cm)は日持ち性に影響がない。

#### 4. 具体的データ

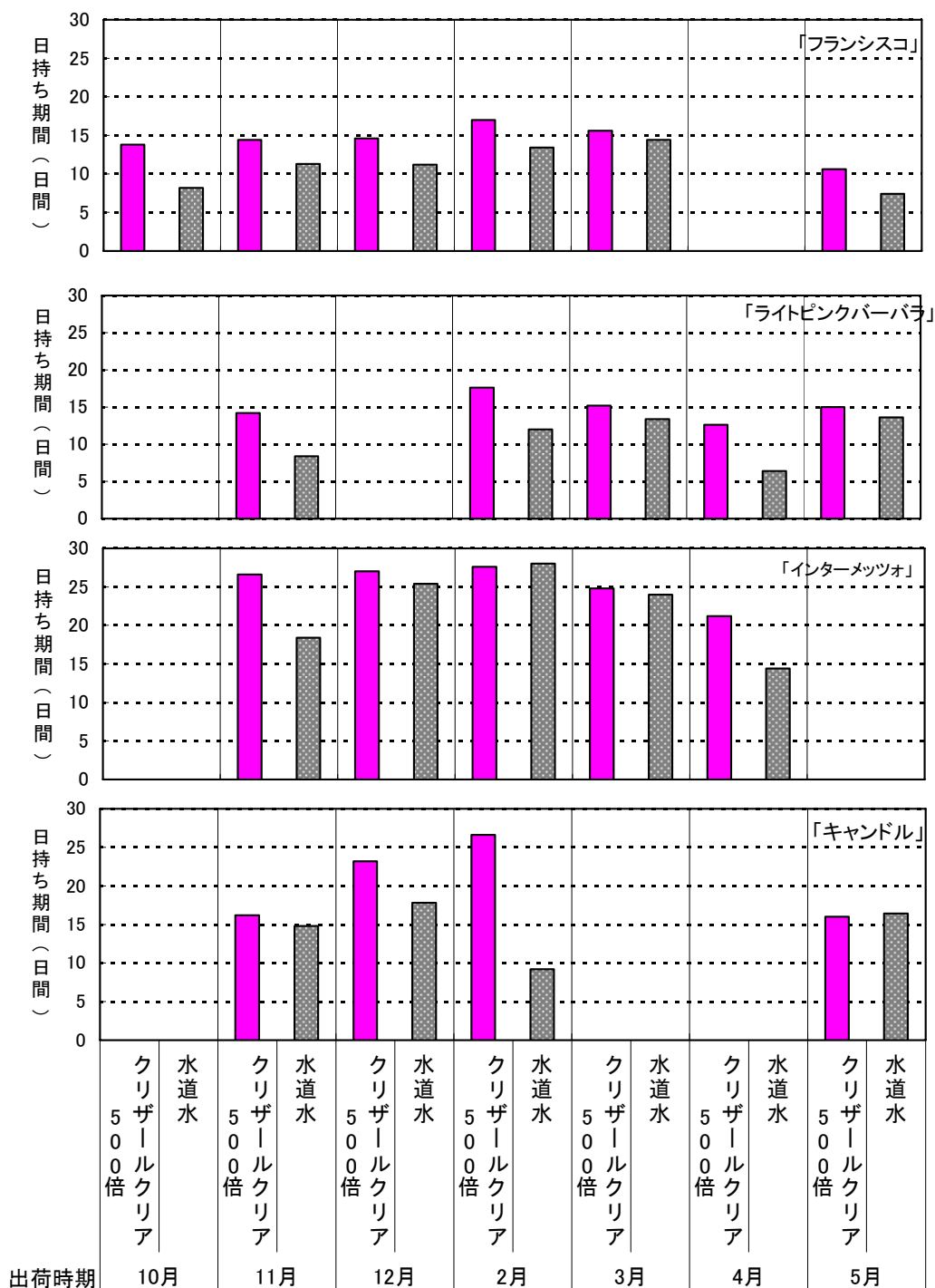


図1 出荷時期の違いと後処理剤の有無が日持ち期間に及ぼす影響

#### 5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

切花カーネーションの日持ち性の解明・平成13～14年度・花き研究室